

2月定例記者会見会議録

平成31年2月4日（月）午前11時～
市役所4階 406会議室

1. 市長からの発表

おはようございます。

1月28日（月）から「当面のまちづくりについて」をテーマに、各地域をまわり「新市建設計画の変更」などを説明し、市民の皆さんの意見をお聞きするため、タウンミーティングを行っています。

現在、青山・島ヶ原・大山田地域に行かせていただき、2月17日（日）まで後4カ所行かせていただく予定です。

今日の私からの発表は4つあります

まず、資料No.1「忍者月間における忍者市PR事業の実施について」です。

伊賀市では、一昨年、「忍者市宣言」を行いました。これは、伊賀が忍者の発祥地、聖地であることを対外的に示すとともに、市民一人ひとりが忍者の歴史文化や精神を継承し、忍者を活かした観光まちづくりを目指すものです。

そこで、この宣言により、広く忍者市・伊賀の情報を発信するため、2月22日の「忍者の日」（「忍者市宣言」を行った日）を中心に忍者市プロジェクト事業を実施します。

まず、1つ目として、伊賀鉄道と連携した忍者市PR事業を2月22日（金）に実施します。

伊賀鉄道伊賀線の愛称を「伊賀鉄道忍者線」とし、上野市駅の愛称を「忍者市駅」とします。駅舎の表示に「忍者市駅」を加えるとともに、駅構内にも「忍者市」をPRするご当地駅名標を整備します。また、記念列車を運行し忍者市を広く発信します。

2つ目として、忍者市市長による市内小学校での出前授業を実施します。郷土愛を育むとともに将来へ向けたまちづくりへの意識の醸成を図るため、郷土の文化である「伊賀忍者」を子ども達に知ってもらうために、2月15日（水）に青山小学校の6年生の児童を対象に授業を行います。

3つ目として、忍者図書館を実施します。

この2月の「忍者月間」に合わせて、上野図書館の中に「忍者」をテーマとしたコーナーを設置するものです。忍法や忍者の心得が書かれた「万川集海」^{ばんせんしゅうかい}の写本や元上野市長の奥瀬平七郎さんの著書「忍術の歴史」なども展示しています。

また、忍者月間における関連事業ですが、忍びの里伊賀甲賀忍者協議会主催の日本遺産シンポジウム「家康決死の逃避行一影で支えた伊賀・甲賀の忍者たち」が、2月23日（土）に忍の里・プラウ（甲賀市甲南町）で開催されま

す。

なお、2月9日(土)から11日(月)にかけては、長島プレミアムアウトレット(桑名市)において、伊賀忍者と甲賀忍者の忍者フェスタを実施します。忍者ショーや手裏剣打ちコーナー、他に両市物産のPRイベントも実施します。

また、2月1日から3日にかけて、大阪市中央区の地下街のなんばウォークで伊賀忍者のPRを中心に行いました。

その他、市内事業者により関連した事業も行われる予定です。詳しくは、日本忍者協議会「忍者の日」キャンペーンサイトでご確認ください。

続きまして、資料No.2「バス車両ラッピングデザインの決定について」です。

三重交通株式会社が所有する上野コミュニティバス「しらさぎ」専用車両のうち1台を今年度に更新します。伊賀市に訪れた人が、伊賀流忍術発祥の地として「忍者市」宣言をした忍者のまちに来たことを実感し、また市民の皆さんのバス利用促進のきっかけとして、SNS等のメディアで話題となるような、まるごと忍者のバス車両ラッピングデザインを募集したところ、25作品の応募がありました。

市では、ファッション・ジャーナリストでアート・プロデューサーの生駒芳子さんをはじめ、美術やデザインについて専門的な知識や経験を有する5名の委員によるバス車両ラッピングデザイン選考審査会を開催し、審査の結果、京都市在住のおおえさきさんの作品が最優秀賞に決定したので、報告させていただきます。

今後の予定ですが、決定したデザインをバス車両へラッピング施工する準備を進めていき、本年4月1日より、このデザインのラッピングバスの運行を開始する予定です。

また、このデザインを活用したグッズ開発などについても検討していきたいと考えています。

続きまして、資料No.3「伊賀市移住者紹介冊子『伊賀人(いがびと)の暮らし』の発行について」です。

先輩移住者の暮らしを紹介し、伊賀市への移住希望者が、自らの未来と重ね合わせる事例集として、「伊賀人(いがびと)の暮らし」を4,000部発行します。

4組の先輩移住者が大切にしている考え方や、ライフスタイル、移住に至る経緯を紹介し、移住希望者が共感を覚え、自らの未来を重ね合わせるロールモデルとして、東京・大阪などでの移住相談会や、移住コンシェルジュ窓口で活用していきます。

また、移住者が伊賀市で実現した「自分らしい暮らし」や、地域や移住者同士の繋がり、多様な楽しみ方の紹介を通じて、伊賀市が魅力溢れ、安心して住

むことができるまちであることをPRしています。

続きまして、資料No.4「地域見守り活動に関する伊賀ふるさと農業協同組合との協定について」です。

この協定は、伊賀ふるさと農業協同組合の日常業務を通じて、地域での見守り活動を円滑に進め、誰もが住み慣れた地域で安心して生活できることを目的としています。

具体的には、訪問や配達、窓口業務等の日常業務での声掛けや安否確認を基本とした見守り活動を行い、異変等を察知した際には関係機関への連絡を取るといったものです。その他に、認知症サポーター養成にも取り組んでいただきます。

日時等の詳細は、資料をご覧ください。

私からの発表は以上です。

2. 2月の主な行事予定

(1) ライトピアおおやまだ「梅まつり」の開催

日 時 平成31年2月22日(金) 午後7時～

場 所 ライトピアおおやまだ

内 容 歌謡ショウ、漫才、人権劇

担 当 人権生活環境部 同和課 ライトピアおおやまだ

(2) 2019年2月 寺田市民館 じんけんパネル展の開催

日 時 平成31年2月1日(金)～27日(水) ※平日のみ

午前8時30分～午後5時

※2月12日(火)・19日(火)は午後7時30分まで延長

場 所 寺田教育集会所 第1学習室

内 容 「女性と子どもの貧困」

担 当 人権生活環境部同和課寺田市民館

(3) 2019年2月 いがまち人権センターパネル展の開催

日 時 平成31年2月12日(火)～3月29日(金) ※平日のみ

午前9時～午後5時

※2月14日(木)・3月7日(木)は午後7時30分まで延長

場 所 いがまち人権センターホール(伊賀市柘植町8898番地)

内 容 「2018年度いがまち人権センター活動紹介」

担 当 人権生活環境部 いがまち人権センター

(4) 子育て広場「にんにんパーク」事業の開催

日 時 平成31年2月10日(日)・24日(日)・3月10日(日)

午前10時～午前11時30分

場 所 上野南公園「にんにんパーク」内 伊賀市ゆめが丘七丁目13番地

内 容 2月10日(日)「にんにんバレンタイン」

2月24日(日)「紙粘土の型抜き」

3月10日(日)「忍者あそびをしよう」

担 当 健康福祉部 こども未来課

3. その他

主な質疑応答

(1) 発表事項から

【忍者月間における忍者市PR事業の実施について】

記 者：忍者市駅の整備に関連し、「時刻表」などの出版物には、東海道本線の
一区間を愛称名の「琵琶湖線」をカッコ表記としていますが、上野市
駅の愛称名「忍者市駅」、伊賀鉄道伊賀線の愛称名「伊賀鉄道忍者線」
の表記を出版社へお願いされますか。

交通政策課：

「まち・ひと・しごと創生」のプロジェクトとして、皆さんに知って
いただくためのひとつと考えています。今のところ「時刻表」などへの
お願いは予定していません。

記 者：2月22日を期して、愛称を使い始めますか。

交通政策課：

2月22日の忍者の日から使い始めます。

記 者：「上野市駅」看板は取り換えるのですか。

観光戦略課：

付け替えの予定です。現在あるのと同程度のサイズで「忍者市駅」と
下側に「上野市駅」を併記します。

市 長：「上野」を取って「忍者」を入れる。下の段へ「上野市駅」を入れます。

記 者：金額はどのくらいかかりますか。

観光戦略課：

駅名表記と駅舎内のご当地駅名標を合わせて約130万円になります。

記 者：ご当地駅名標の設置場所はどこになりますか。

観光戦略課：

駅舎内のFCくノ一の忍者マスコット(くノんちゃん)の横になります。

市長：ご当地駅名標は、記念撮影できるようなモニュメントのような物です。

記者：忍者市宣言記念列車とは、どのようなことをされますか。

観光戦略課：

忍者市宣言の2年目を記念することをPRするための列車になります。
忍者にちなんだお弁当やお菓子、飲み物、お土産を準備しています。
また、伊賀之忍砦（忍者グループ）も同乗するため、記念撮影などが
できます。

記者：車内アナウンスを「忍者市駅」に変更されますか。

また、記念列車でもされませんか。

交通政策課：

変更は考えていません。

記者：車両先頭の行先表示はしませんか。

交通政策課：

変えませんが、イベント当日は、先頭と後ろに忍者列車とわかる表記
はします。

【バス車両ラッピングデザインについて】

記者：おおえさきさんはどのような方ですか。

交通政策課：

イラストレーター、漫画家です。

記者：出発式はしますか。

交通政策課：

4月1日からになるため、この日に出発式のようなものをしたいと考
えています。

記者：4月1日から、上野コミュニティバス「しらすぎ号」の2台のうちの
1台が、このラッピングバスになるのですね。

交通政策課：

はい。

記者：名称は「しらすぎ号」ですか。

市長：2台とも変わったときに、名称も変わるかもしれません。

(2) その他から

【市職員の伊賀鉄道の利用状況および職員駐車場について】

記者：市長は、庁舎が開庁して様子を見ながら原則公共交通で通ってもら
うとおっしゃっていましたが、1か月がたち落ち着いてきましたが、その
後職員の通勤についてお調べになりましたか。

- 市 長：まだ調べておりませんが、意向については変わっておりません。
- 記 者：一部SNSなどから、職員の駐車場が大きくて便利の良いところにあるという批判もあります。
- 市 長：職員駐車場は、市庁舎北側や県庁舎の相互左右などにあり、市民の皆さんには広く使っていただいているはずです。

【新庁舎での業務について】

- 記 者：新庁舎へ移って1カ月ですが、感想を聞かせてください。
- 市 長：各部署間の連携が非常にスムーズになりました。担当に確かめたいことや指示をすることがスムーズにできるようになり、無駄な時間が無くなりましたので、各部署で効率的な仕事をしてもらいたいと思います。

【旧庁舎の活用について】

- 記 者：前の庁舎が全部閉まり、市街地の売り上げが落ちている。市職員だけでなく、市役所への来庁者が寄られる方もいたので売り上げが落ちていると聞きます。あと数年この状態でしょうか。
- 市 長：3月議会で承認されれば、2年程度で出来るかと思えます。
- 記 者：その間、市民に開放するなどのお考えはありますか。
- 市 長：リノベーション計画が軌道にのれば工事が始まりますから、設計までの間くらいは、周辺でイベントをするなどはあるかもしれませんが、基本的にはしっかりとリノベーションをして賑わいを2倍、3倍にも取り戻すことが本来のお話です。
- 記 者：旧庁舎前の駐車場を無料にしてほしいという声も聞きますが、そういうお考えはありますか。
- 市 長：観光客にはしっかりとお金を落とさせていただかないといけませんので、これまでも駐車料金を払っていただいています。庁舎に来られた方は無料でしたが、庁舎がなくなれば観光客だけですから、有料でお止めいただかないとランニングマネーはできません。むしろ早く次のステップに移るほうが大事だと思います。まちの方からも困ったという声を聞きますが、駐車場を経営されている方や食堂をされている方などからご心配をいただいています。早く色々なコンセンサスを考えています。

【ポケットパークの設置について】

- 記 者：上野東町のポケットパークの看板、トイレをやめてほしいという趣旨ではないようですが、東町の多くの人がトイレではなく、観光案内所

などにしてほしいと言われていました。一昨年の夏に、市から話があり、それから1年ほど空いて昨年11月に完成図が示されました。その間、住民と話をする機会がほとんどなかったというお話でした。

行政の事業そのものの是非はともかくとして、進め方や住民との会話が足りなかったのではという印象を受けましたが、その辺りいかがですか。

市長：私たちは、自治協の皆さんに数多くの説明をしてきたというのが実際のところですよ。また、防犯や臭い、管理運営などの詳細なご懸念も提出をいただいて、すべてお答えをして質問はすべてクリアしていると思っています。

自治協に対する同意については、自治基本条例に規定する同意事務を得る公共施設建設とは、住民生活に重大な影響が及ぶと考えられるものが対象です。今回は、同意事項の対象ではないということですが、その分十分説明をさせていただきましたし、これからも説明をさせていただきます。どのような事業を行うにしても、100%賛成ということはないと思います。ただ、公共性あるいは将来への投資ということですので、やはり行わなければならないと思います。

記者：場所の決定について、不満があるようにも聞いています。実際ハイトピア伊賀にもトイレはあり、1階には観光案内所というように、観光客が来るような場所になっています。質問書の回答には、ハイトピア伊賀でトイレを使ってもらおうと困ると捉えかねないような回答もありました。

市長：天神祭りの時に随分たくさんの方が来られますが、トイレの場所についての問い合わせが一番多いです。

また、ポケットパークは、トイレ公園ではなく、芭蕉の精神を生かしたポケットパークです。その中で休息施設の機能を持たすので、トイレを作るための公園ではありません。

記者：トイレが前面に出すぎていると思います。トイレ公園だと思います。トイレ以外に、桜の木とかベンチなど、トイレ公園のイメージがあったので、これならコンビニの方が良かったのでは。

市長：コンセプトは、芭蕉の世界を表したポケットパークで、その中で桜を植えたり、他にはない機能を持ったみんなが使えるトイレ、デザイン性も豊かなものを作ろうということです。ポケットパーク事業は第一次市街地活性化計画の積み残し事業で歴史は古いです。皆様のご心配についても、私たちの方で管理についても、防犯についても臭気についても、全てクリアされています。皆様方には、公共性というものをしっかりと、よくある話で総論賛成各論反対となってくるのかと、

そういう意味では、これからも説明はしっかりと丁寧にさせていただきます。市として責任をもってします。

記者：建設反対の看板には、昨年の12月議会で、市長が必ずしも地元の同意が必要ではないと言った、と書いてありました。

市長：条例に決められていることに該当しない案件ですから。住民生活に重大な影響はありますか。代わりに皆さんのご懸念は払しょくできるような対応はします。住民の皆さんが誤解をされているとしたら、しっかりとした説明をもう一度しなければいけないと思います。

記者：住民側の言い分をそのまま伝えるとしたら、重大な影響があると思っている。見解の違いというか、言葉のとらえ方の問題で、行政側としては重大な影響を及ぼす事業ではないと判断しているということですよ。

市長：むしろ我々としては、地域の活性化に資する中心市街地活性化事業ですから、ご理解いただかなければいけないと思います。

記者：日本一のトイレということで、市も中心市街地を活性化するのに、そういったものも必要だとおっしゃり、トイレについては、住民の方も必要だとおっしゃっていますが、少しミスマッチなのかな。実際、説明があった時点で、写真映えとか素敵なトイレで喜んでもらうというのはわからなくないですが、「すごくいいトイレが出来た。」「また来たい。」それはないと思います。「こんなきれいなトイレがあるから忍者市に来たい。」「あのトイレ使いたい。」ってもう一回来ますでしょうか。例えばトイレはいいですが、場所をもう少しどこかという説明はしてほしかった。実際に設計を見た時に、どうしてそこまでのトイレが必要なのか、というところで住民の方々が戸惑い、疑問を持っているように話を聞くと答えられているので、その辺はどうですか。

市長：ひとつは都市経営です。いかにして都市を経営していくか、美徳を得られるような街づくりをするか、これは社会資本を通じた投資、経営とも考えます。話題性を経済活動に変えるという意味では大きい事業です。

記者：西部地区の方から協議の場を設けてほしいという要望が来ています。

市長：しっかりと説明をさせていただきます。

【オスプレイの飛来について】

記者：市長はオスプレイの三重県内の飛来について何かご見解ございますか。

市長：皆さんのご心配のないよう、しっかりと飛行ルートなどの情報は事前に公開していただくのがよいのではないのでしょうか。非常事態で作戦

中であればそうはいかないでしょうが、平時の訓練であれば、皆さんが不安を感じないようにしていただくことが一番であると思います。

記者：危機管理監は「伊賀市にはマスコミ報道以上の情報は受けてないため、県などの関係当局に問い合わせることもあり得る。」とおっしゃっていましたが、市長としてはもっと情報開示を求めて動くようなことはございますか。

市長：とりあえず、ホームページに掲載すること。そして県にしっかりと認識をしていただくことが大事です。

記者：日米地位協定の見直しを全国知事会と歩調を合わせて伊賀市長も政府に要望していただけますか。

市長：オスプレイの件だけでなく、日米地位協定のことについて尋ねられるとするならば、安政の不平等条約のような面が多くありますから、しっかりと独立国としての権威と実行を担保されるような地位協定であるべきだと思います。

【厚生労働省の統計不正について】

記者：地域経済等にもかかわってくるのでお尋ねします。厚生労働省の統計不正が明るみになって賃金は実はマイナスだったのではないかという話が出ていますが、市の経済を預かる責任者として何かございますか。

市長：統計の不屈きな話もさることながら、このところ文科省、財務省、国レベルの不適切な事務取扱がずっと続いてきて、私たちが地域で頑張ってきていますが、何か忸怩たる思いを抱かざるを得ない。しっかりとしていただきたい。